

備前市施策評価シート

施策名 (小項目)	図書館・視聴覚ライブラリー	コード	作成者	役職	図書館長
		03-02-05		氏名	星尾 靖行
			電話	64-1134	
			このシート作成に要した時間		4.0 時間

この施策の アピール ポイント	教養、調査研究、レクリエーション等のために図書館、視聴覚ライブラリー機器、機材を利用していた だき、心豊かに生きがいのある生涯学習を行ってもらう。
-----------------------	--

この施策の 平成24年度の 施政方針	図書購入費を増額し蔵書の充実と利用促進につなげてまいります。また、視聴覚ライブラリーでは地震 と津波のDVDソフト等購入し、ソフトの充実を推進してまいります。
--------------------------	--

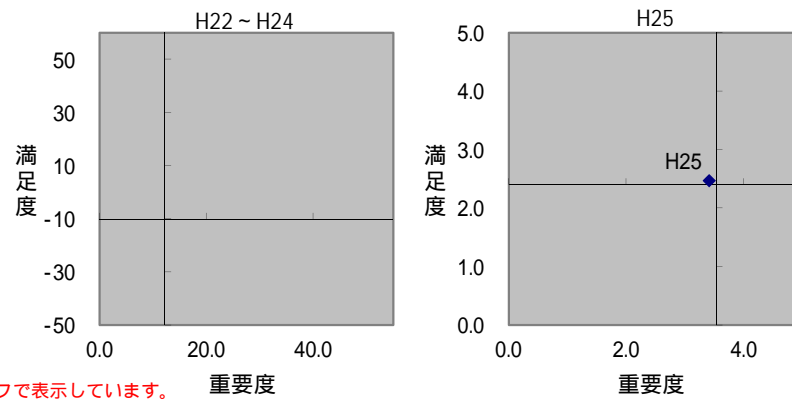
< 備前市総合計画の内容から記載する >

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化と人が輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	生きがいのあるまちづくり
対象と目的 (誰のために、何の ために)	市内在住・在勤の市民(H23年度から、赤穂市民、上郡町民との相互利用可能。) 豊富な知識や多様な情報を市民に提供する学習施設として、利用な場を提供する。	
現況と課題 (総合計画から現在の 問題点を抽出)	図書館は、本館、日生分館、吉永分館の3館であるが、各館として閲覧室、書庫が狭いことから、広くて蔵書の充 実した図書館が望まれる。また、視聴覚ライブラリーは、高度情報通信化に対応できる施設として、機材・教具 の整備が望まれる。	
施策展開 (総合計画の施策部分 から、実施する施策 を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史文化資料など、本市のまちづくりに即した関連図書・資料などが提供できるようにしていきます。 ブックスタートを充実させ、幼少期から本に親しむ環境づくりに努めます。 本館・分館と他の自治体図書館との相互貸借の利用、またネット予約ができるシステムを充実させます。 視聴覚ライブラリーの充実を図ります。 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H22	H23	H24	H25
重要度(%)				3.4
満足度(%)				2.5

横軸に重要度、縦軸に満足度をとり、それぞれの平均値を交点としてグラフ化しています。



H25から数値の採取方法を変更したため、別グラフで表示しています。

調査結果に対するコメント、市民の反応等	図書館が小さいので将来的には独立した図書館の建設をお願いしたい。また、蔵書が少ないとの意見があった。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単 位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H22	H23	H24		H25	H28
成果指標 1人当たりの貸出数	目標	冊	3.5	3.5	3.5	H25	3.5
	実績	冊	3.1	3.0	3.0	H28	3.5
	達成率	%	88.6	85.7	85.7	-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標 視聴覚教材及び機材の貸出団 体数	目標	団体	100	100	100	H25	130
	実績	団体	99	131	130	H28	140
	達成率	%	99.0	131.0	130.0	-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標 市の図書館を月に1回以上利 用している市民の割合	目標		10	10	10	H25	10
	実績		9.6	8.5	9.0	H28	10
	達成率	%	96.0	85.0	90.0	-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H25	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク					-	-

目標達成に必要な新規事業(裏面 施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
図書館	新図書館システムを更新し、利用者にとって 便利なサービス(インターネット予約)ができ るようになった。	利用者にとって便利になり、利用者の増加が見込める。

施策の評価

項 目	評 価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1	< 成果指標の妥当性 > 施策の目的・成果を表現し ているか?	4	図書館については、市民1人当たりの年間貸出冊数を成果指標とし、図書館の利用促進を図っ ており妥当な指標である。視聴覚ライブラリーについても機材、教材の貸出団体(延)数を指標 とし、ライブラリーの充実を目指しており妥当な指標である。
2	< 事業構成の適当性 > 手段は最適か?	3	図書館の利用促進を図る上で、図書館運営事業は適当である。特に、横断検索システムにより 県立図書館、県内の他館との資料活用が図られている。視聴覚ライブラリー事業は、機材の利 用を図ることから、事業構成は適当である。
3	< 施策の有効性 > 指標分析、評価年度・中長 期の達成見込みは?	3	図書の貸出冊数は、わずかに減少気味である。子供読書活動の推進、横断検索の充実、移動図 書館のPRに努め目標達成を目指す。視聴覚教材の貸出については、目標達成をクリアし、今 後も教材等の更新を実施し利用者増を目指す。
	進行年度(H25年度)の取組内容 (課題解決状況)		図書館は、「備前市子ども読書プラン」における推進取組として、昨年、備前市内小中学校の希望者 に利用者カードを作成し配布した。視聴覚ライブラリーでは教材として、DVDソフトを購入する予 定。
	翌年度(H26年度)の取組目標		図書館では蔵書の充実を図り、電子書籍の導入の検討、移動図書館車の巡回場所の頻度の見直しを行 い、また、特に小中学生を対象として図書の充実を図っていききたい。また、視聴覚ライブラリーで は、DVDなどの教材の充実を図り、利用促進に努めたい。
	二次評価者コメント		図書の貸出冊数は、わずかに減少しているが、ブックスタートの充実、子供読書 活動の推進、横断検索システムによる共同利用の促進。また、「備前市子ども読 書プラン」の取組として、市内の多くの小中学生に利用者カードを配布し利用者 の促進を図ってください。また、現在図書館の閲覧室等が狭いことから、将来の 図書館建設についても検討してください。
	役職 氏名	教育次長 岩崎 透	基本施策への 貢献度 3 中立

